

Take Free ご自由にお取り下さい
http://fujisprintcup.jp

JAFグランプリスーパーGT & フォーミュラ・ニッポン 富士スプリントカップ 2011 | 2010年11月11日(金),12日(土),13日(日) | 富士スピードウェイ



GT500 決勝レース1

S Road MOLA GT-Rのクインタレツリ チャンピオンが貫禄のポールトゥーウィン

11月12日、「JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2011」の第1レース決勝が、富士スピードウェイ(静岡県)で行なわれた。GT500クラスではNo.46 S Road MOLA GT-R(ロニー・クインタレツリ)が優勝した。

午後3時19分、迎えたGT500の第1レース。ポールポジションのNo.46 S Road MOLA GT-R(ロニー・クインタレツリ)、No.6 ENEOS SUSTINA SC430(大嶋和也)のフロントロウ2台は好スタートを決める。その背後ではNo.12 カルソ



ニック IMPUL GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ)とNo.36 PETRONAS TOM'S SC430(アンドレ・ロッチェラー)、No.1 ウイダー HSV-010(小暮卓史)が激しく3番手を争うが、2コーナーでスリーワイドとなる中、小暮とロッチェラーは接触し、ウィダーはピットでリタイアする。トップに立ったクインタレツリの後方では、ペースの上がらない大嶋にオリベイラが猛攻を仕掛け、3周目の最終コーナーでNo.12 カルソニック IMPUL GT-Rが2番手浮上を果たす。

一時は3秒以上のマージンを稼ぎ、楽々逃げ切りかと思われたNo.46 S Road MOLA GT-Rだったが、ペースに勝るNo.12 カルソニック IMPUL GT-Rが徐々に間合いを詰め、首位争いは緊迫。同様に3番手を行くNo.36 PETRONAS TOM'S SC430には、13番グリッドから追いついてきたNo.35 D'STATION KeePer SC430(脇阪寿一)が肉薄する。

拮抗した攻防となった首位争いは、時に接触するほど熱い戦いとなった3位争いは、最終ラップのヘアピンでロッチェラーのインを突いた脇阪に軍配が上がることに。

結局辛くも逃げ切ったNo.46 S Road MOLA GT-Rが優勝。2位にNo.12 カルソニック IMPUL GT-R、3位はNo.35 D'STATION KeePer SC430で、今季初の表彰台に上がった。

決勝レース2予選
PP Pole Position
ロニーが獲っているから僕も獲りたかった
柳田 真孝 No.46 S Road MOLA GT-R



装着していたのは普通のウェットタイヤでした。でも雨の量が極めて少なくなったとき用のタイヤなので、これを選ぶ場合はもう最初から(決め打ちで)いかないとダメなんです。タイヤがすぐに温まらず、アタック序盤は苦しかったんですが、そこをガマンしてタイヤ(のパフォーマンス)を信じて温める作業を続けました。そこをなんとか踏ん張ればタイムが出るっていうことはわかっていました。温めるっていうのもゆっくりしたペースだと温まらないので、かなりプッシュして走りました。ロニー(クインタレツリ)が11日に第1レースのポールポジションを獲っていたから、僕も獲りたかったし、獲れてよかったですよ。うれしい! スタンディングスタートに関してはみんな同じ条件なので、そこでどうこう考えてもいいことないんで(笑)、普段どおりやりますよ。いいレースします!

第2レース公式予選 2011年11月12日(土) 天候: 晴/コース: セミウェット/気温: 18℃/路面温度: 20℃

GT500 Race2 Starting Grid

2011 11.13 Sun 15:25 start

柳田 真孝 (1'43.017/MI) S Road MOLA GT-R	46	PP	
	2	32	道上龍 (1'43.061/DL) EPSON HSV-010
安田 裕信 (1'43.259/YH) ADVAN KONDO GT-R	24	3	
	4	100	伊沢拓也 (1'43.608/BS) RAYBRIG HSV-010
荒 聖治 (1'43.852/YH) WedsSport ADVAN SC430	19	5	
	6	12	松田 次生 (1'43.883/BS) カルソニック IMPUL GT-R
立川 祐路 (1'43.948/BS) ZENT CERUMO SC430	38	7	
	8	23	本山 哲 (1'44.098/BS) MOTUL AUTTECH GT-R
ロイック・デュバル (1'44.160/BS) ウィダー HSV-010	1	9	
	10	39	井口卓人 (1'44.281/MI) DENSO SARD SC430
伊藤 大輔 (1'44.605/BS) ENEOS SUSTINA SC430	6	11	
	12	35	アンドレ・ロート (1'44.934/BS) D'STATION KeePer SC430
中嶋 一貴 (1'44.972/BS) PETRONAS TOM'S SC430	36	13	
	14	17	金石年弘 (1'44.993/BS) KEIHIN HSV-010
武藤 英紀 (1'45.680/BS) ARTA HSV-010	8	15	

タイヤ=BS:ブリヂストン, DL:ダンロップ, MI:ミシュラン, YH:ヨコハマ

この表は公式予選結果をもとに連報編集部で独自に作成したものです。主催者による公式発表ではありません。



Top3 Interview GT500 決勝レース1



最後にグリップが戻ってプッシュできました
ロニー・クインタレツリ No.46 S Road MOLA GT-R



決勝はデータがほとんどなかったから、スタート前に路面温度を測って、過去のデータと比べて決めました。自分自身もウォームアップでクルマやタイヤのフィーリングがとても良かったので、勝つことができました。レースがスタートして序盤はクルマ、タイヤ、すべてが良くて、いいペースで走ることができました。レース後半は12号車がものすごいスピードで迫ってきて、こちらのタイヤの消耗もあって追いつかれたんですが、残り3、4周になってきたら、タイヤのグリップが少し戻ってきたので、またプッシュをすることができて、最後は安心してゴールできました。



最大限の結果が残せたから満足だよ
ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ No.12 カルソニック IMPUL GT-R



万全のレースをするためのタイヤ選択をしたことが、結果的に正解だった。ただ終盤、ロニー(クインタレツリ)との差は詰まったけれど、そのときにはもうリアのグリップはなくなっていた。ちょっとハードに攻めすぎたかな。ロニーといいバトルもしたし、彼にはおめでとうを言うよ。今日の僕ができる仕事としては最大限の結果が残せたから満足だよ。



みんなのがんばりがリザルトに残って良かった
脇阪 寿一 No.35 D'STATION KeePer SC430



アンドレ(ロッチェラー)と勝負できて楽しかったし、逆転したから盛り上がったでしょう? こんな機会を与えてくれた神様に感謝します。1コーナーやダンロップコーナーで並んだのは駆け引き。抜くのはヘアピンと決めてました。周りのみんなが喜ぶ顔を見たら、優勝に匹敵するくらいありがたい結果と言えますね。みんなのがんばりがリザルトになって良かったです。

Result GT500 決勝レース1

Fuji Speedway (4.563km) / 2010.11.12sat
天候: 曇/コース: ドライ/気温: 16℃/路面温度: 18℃

No.	No.	Driver	E/W	Machine	Tire	Time/Gap
1	46	ロニー・クインタレツリ	W	S Road MOLA GT-R	MI	35'18.666
2	12	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	B	カルソニック IMPUL GT-R	BS	0.541
3	35	脇阪 寿一	W	D'STATION KeePer SC430	BS	13.823
4	36	アンドレ・ロッチェラー	W	PETRONAS TOM'S SC430	BS	14.117
5	38	平手 晃平	W	ZENT CERUMO SC430	BS	24.712
6	19	片岡 龍也	W	WedsSport ADVAN SC430	YH	24.722
7	6	大嶋 和也	B	ENEOS SUSTINA SC430	BS	26.410
8	100	山本 高貴	B	RAYBRIG HSV-010	BS	29.119
9	39	石浦 宏明	B	DENSO SARD SC430	MI	37.547
10	8	小林 崇志	W	ARTA HSV-010	BS	40.224
11	17	塚越 広大	B	KEIHIN HSV-010	BS	1'27.504
12	23	ブワトトレイエ	W	MOTUL AUTTECH GT-R	BS	1'44.946
13	32	中山 友貴	B	EPSON HSV-010	DL	1Lap
——以上完走(規定周回数クラス1:15Laps)——						
	24	ピヨン・ビルドハイム	B	ADVAN KONDO GT-R	YH	17Lap
	1	小暮卓史	B	ウィダー HSV-010	BS	21Lap

タイヤ=BS:ブリヂストン, DL:ダンロップ, MI:ミシュラン, YH:ヨコハマ

ARTA Project
GT300 CLASS : ARTA Garaiya

オートバックスはモータースポーツの発展を目指し、シリーズタイトルスポンサーとして、「2011-AUTOBACS SUPER GT」をバックアップしています。
世界中のドライバーをクルマ好きにしたい
クルマのことなら オートバックス
AUTOBACS Super AUTOBACS super AUTOBACS

AUTOBACS SUPER GT 2011 SERIES
GT500 CLASS : ARTA HSV-010
オートバックス



Formula NIPPON 公式予選

ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ (TEAM IMPUL) がポールを獲得

11月12日、富士スピードウェイ(静岡県)で“JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2011”の公式予選が行われ、No.1 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ (TEAM IMPUL) がポールポジションを獲得した。

昨夜遅くまで降り続いた雨が止み、霧の朝を迎えた富士スピードウェイ。その後、温かな陽射しが雲の切れ間から顔を出すと、頂上に雪帽子を被った富士山が姿を現した。フォーミュラ・ニッポンの予選が開始されたのは、午前10時15分から。この時点での気温は16℃、路面温度は21℃。まだコー



ス上のあちらこちらに濡れている部分があり、ウェット宣言(レインタイヤの使用許可)が出るが、実際には全車スリックでアタックに入った。

トップバッターとして、コースに入ったのは、No.18 松田次生 (SGC by KCMG)。松田は、さすが2年連続チャンピオンという走りでも1分26秒936を叩き出す。これに続いて走行した6名は、ラップタイムでは松田を上回ることができない。だが、こうしたドライバーの中には、ダウンフォースを大きく削っている者も。彼らは、最高速のポイントで松田を大きく上回ってきた。一方、ようやくラップタイムで松田を上回ったのは、No.40 伊沢拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)。しかも、伊沢は松田のタイムを0.831秒と大きく更新。だが、トップスピードは伸びなかった。その後の5名は、ラップタイムでは伊沢に及ばず。しかし、14番目に出走したオリベイラが、伊沢のタイムを大幅に更新。トップスピードも伸ばしてきた。



これで俄然注目されたのは、今季圧倒的な強さですべてのタイトルを総なめしたPETRONAS TEAM TOM'Sの2台。ところが、この2台は思うようにタイムを伸ばせない。先に走行したNo.37 中嶋一貴 (PETRONAS TEAM TOM'S) は、ラップタイムではNo.8 石浦宏明 (Team KYGNUS SUNOCO) の後ろ。最後に走行したNo.36 アンドレ・ロッチェラー (PETRONAS TEAM TOM'S) も、中嶋一貴を上回ったものの、7番手に留まった。しかし、トップスピードのポイントを加算すると、中嶋一貴が一気にポジションアップ。結果として、ラップタイム、スピードともに大きなポイントを稼ぎ、ポールポジションを獲得したのはオリベイラだった。これに続いたのは、中嶋一貴で、この2人がフロントロウを分け合うのは、F3でチームメイトだった2005年以来となるが、決勝も当時を思わせる激しいバトルが見られるはずだ。また今季チャンピオンを獲得したロッチェラーは7番手。決勝レースでは、ここからどのような追い上げを見せるのか。そして、最高速でトップだったNo.33 国本雄資 (Project μ/cerumo・INGING) が4番グリッドを獲得。ルーキーとしてどんなパフォーマンスを見せてくれるのか? 決勝レースが非常に楽しみだ。

Formula NIPPON Starting Grid	
2011 11.13 Sun 12:00 start	
ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ (38pt.) TEAM IMPUL	1 PP
中嶋一貴 (31pt.) PETRONAS TEAM TOM'S	2 37
石浦宏明 (30pt.) Team KYGNUS SUNOCO	3 8
国本雄資 (30pt.) Project μ/cerumo・INGING	4 33
伊沢拓也 (29pt.) DOCOMO TEAM DANDELION RACING	5 40
大嶋和也 (29pt.) Team LeMans	6 7
アンドレ・ロッチェラー (28pt.) PETRONAS TEAM TOM'S	7 36
平手晃平 (28pt.) TEAM IMPUL	8 2
アンドレア・カルダレリ (28pt.) KONDO RACING	9 3
山本尚貴 (27pt.) TEAM 無限	10 16
松田次生 (24pt.) SGC by KCMG	11 18
塚越広大 (22pt.) DOCOMO TEAM DANDELION RACING	12 41
中嶋大祐 (16pt.) NAKAJIMA RACING	13 31
小林崇志 (13pt.) HP REAL RACING	14 10
嵯峨宏紀 (11pt.) Le Bausset Motorsports	15 62

タイヤはブリヂストンのワンメイク

この表は公式予選結果をもとに速報編集部で独自に作成したものです。主催者による公式発表ではありません。

Top3 Interview Formula NIPPON 公式予選

Quality Pole Position 接近戦のバトルをしないで逃げたい ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ No.1 TEAM IMPUL



今日はクルマのセットアップとダウンフォース量の間で妥協する部分があったけど、すごいギャンブルができたと思う。ダウンフォースはすごく削っていったよ。ガーニーも取り払っちゃったし。クルマのバランス的には、ちょっとオーバーステアだったけど、1周のアタックなら問題なかった。今回は、久々にカズキ(中嶋一貴)とフロントロウを分けることになったね。僕らの間には、色々な歴史があるから(笑)。F3では、彼がポールで僕が2位という感じで、今回とはポジションが違っていただけ、今でもカズキは強力なライバル。でも、あまり接近戦のバトルになることなく、逃げたいね(笑)。

Quality 2nd 決勝は勝てるようにがんばります 中嶋一貴 No.37 PETRONAS TEAM TOM'S



狙い通りです(笑)。いや、このポジションは、たまたまです。タイムだけ狙っていたんですけど、思ったほどグリップせず、走りも50点ぐらいでしたね。まあ、結果2番手なので、決勝は勝てるようにがんばります。F3以来、久々にJP(デ・オリベイラ)とフロントロウを分ける形になったんですけど、バチバチにやってみたら飛んでいられないように、気をつけます(笑)。

Quality 3rd 来年につながるようなレースをしたい 石浦宏明 No.8 Team KYGNUS SUNOCO



僕が思っていたよりも、スピードトラップ(最高速の記録)の得点の影響が大きいなと思いましたね。本当はスピードトラップでもっと上を狙っていたんですけどね。国本の点数を見ても、もうちょっと削ってあげたら、もっと上にいけたなと思います。ただ、3位でも悪くない。JAFグランプリも大事ですけど、今日は来年につながるようなレースをしたいです。

Result Formula NIPPON 公式予選

Fuji Speedway (4.563km) / 2010.11.12sat
天候: 晴 / コース: セミウェット / 気温16℃ / 路面温度21℃

Fastest Speed Ranking			
No.	Driver	Engine	km/h
1	33 国本雄資	T	307.342
2	3 アンドレア・カルダレリ	T	306.036
3	1 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	T	305.516
4	37 中嶋一貴	T	304.654
5	16 山本尚貴	H	304.225
6	2 平手晃平	T	302.775
7	8 石浦宏明	T	302.098
8	36 アンドレ・ロッチェラー	T	301.423
9	18 松田次生	T	300.584
10	7 大嶋和也	T	300.334
11	40 伊沢拓也	H	299.335
12	31 中嶋大祐	H	299.335
13	32 小暮卓史	H	298.507
14	10 小林崇志	H	297.931
15	62 嵯峨宏紀	T	297.849
16	41 塚越広大	H	296.053

Lap Time Ranking			
No.	Driver	Engine	Time
1	1 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	T	1'25.756
2	40 伊沢拓也	H	1'26.105
3	7 大嶋和也	T	1'26.113
4	41 塚越広大	H	1'26.256
5	8 石浦宏明	T	1'26.297
6	36 アンドレ・ロッチェラー	T	1'26.319
7	37 中嶋一貴	T	1'26.471
8	2 平手晃平	T	1'26.568
9	18 松田次生	T	1'26.936
10	16 山本尚貴	H	1'26.962
11	33 国本雄資	T	1'27.043
12	3 アンドレア・カルダレリ	T	1'27.051
13	32 小暮卓史	H	1'27.152
14	31 中嶋大祐	H	1'27.447
15	10 小林崇志	H	1'27.732
16	62 嵯峨宏紀	T	1'28.451

タイヤはブリヂストンのワンメイク Engine: T=TOYOTA RV8K/H=Honda HR10E

3周目のオーガナイザーが定める地点での速度が速い順および3周目の計測タイムが速い順に以下のポイントが与えられる。

ポイント	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
最高速		20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
ラップタイム		20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5

全選手とファンが一緒になって競争せよ!? 東西対抗戦

FUJI SPRINT CUPに参戦する全ての選手が、出身地によって東軍、西軍に分かれ、獲得ポイントの合計を競い合う東西対抗戦。応援グッズを買ったりお食事する皆様のお客様ポイントも勝敗を決する重要なカギになっている!

さあ、君は東軍・西軍どちらを応援するか?
*外国人選手は実行委員会によって振り分けられています。

◀車両には必ず識別シール(赤=東軍/青=西軍)が貼られている。

参加方法 1 応援マフラータオルを買う!



東西対抗戦には、なんとファンも参加できるんだ! それは場内販売店で売られている『応援マフラータオル』を買うこと。これは東軍用(赤)、西軍用(青)に分けられており、販売総数×0.1ポイントが加算される。つまり、応援団の多い方が有利になるわけ。しかも勝利した方のマフラータオルを買った方には金メダル缶バッジをもらえるプレゼント!! これは絶対買わない!!

参加方法 2 各軍のグルメ(丼物)を食べる!

メインスタンド裏にあるショッピングテラスのメニューも東軍と西軍に分かれている。この販売数も各軍のポイントになるのだ! いつも以上にメニュー選びに熱が入りそうぞ! 12日・13日の各日とも各店舗先着50名様に東西対抗戦ステッカーをプレゼント!



参加方法 3 トキメキ写真館で投票する!

ドライバーのオン・オフショット写真を集めた写真展がイベント広場にオープン。お気に入りのドライバーに投票すれば、東西戦のポイントにも反映されるんだ!





ラストラップのデッドヒート! 0.092秒差で初音ミクグッドスマイルBMW(谷口信輝)が優勝

11月12日、“JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2011”の第1レース決勝が、富士スピードウェイ(静岡県)で行なわれた。GT300クラスではNo.4 初音ミクグッドスマイルBMW(谷口信輝)が優勝した。

ポールスタートのNo.11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458(平中克幸)が出遅れ、セカンドポジションからスタートしたNo.4 初音ミクグッドスマイル BMW(谷口信輝)がトップを奪う。No.11 平中は、さらに1コーナー



でNo.33 HANKOOK PORSCHE(藤井誠暢)に抜かれるなど、序盤で4番手までポジションを下げた。

トップに立ったNo.4谷口と、2位に進出したNo.33 藤井は後続を引き離していく。後方ではNo.88 関口とNo.11 平中、そしてNo.62 R&D SPORT LEGACY B4(佐々木孝太)、No.15 ART TASTE GT3R(ティム・ベルグマイスター)が何度も順位を入れ替える3位争いを繰り返す。この争いはラストラップに突入。そのコントロールラインをNo.15 ベルグマイスター、No.11 平中、そしてNo.43 ARTA Garaiya(松浦孝亮)の順に通過。そして100RでアウトからNo.11 平中が仕掛け、けん制するNo.15 ベルグマイスターがアウトに押し出す格好となる中、No.43 松浦が漁夫の利で3位に進出した。

トップ争いもファイナルラップの最終コーナーで一波乱。タイヤが厳しくなってペースの鈍ったNo.4 谷口のテールにNo.33 藤井が食らいつく。藤井は最終コーナーでインから谷口をかわすとトップでストレートへ。しかし、しぶとく藤井の背後につけた谷口は、スリッを使ってゴールラインの直前で藤井の横へ飛び出す。そして、わずか0.092秒の僅差で再逆転して優勝した。



決勝レース2予選 Pole Position 欲をかかずに表彰台を狙って走りたい 高木真一 No.43 ARTA Garaiya



ほかに合わせて僕もスリックで出ていったんですけど、すぐにレインタイヤに交換しました。タイヤが温まるまでに時間がかかったんですけど、ブリヂストン(BS)の良いレインタイヤをうまく使い切ったというかたちですかね。『レインと言えばBS』というぐらい調子がいいんで。決勝では、5台くらいには(前に)いかれるでしょうね、スタートで(笑)。FIA GTマシンが後ろにきたら間違いなく抜かれるから、そのへんがうまく散らばって、僕が単独で走れば意外とポジションキープはできると思うので、欲をかかずに、まあせめて表彰台を狙って走りたいです。去年もポールから、何年ぶりのスタンディングだったんですけど、たまたまうまくいって1周目からぶっちぎったんでね。1年前をよく思い出してスタートすればうまくいくんじゃないかなと思ってます(笑)。

第2レース公式予選 2011年11月12日(土) 天候：晴/コース：セミウェット/気温13℃/路面温度17℃

Table with 2 columns: Driver No./Name and Grid Position. Includes starting grid for Race 2 starting at 14:10. Drivers listed include 高木真一, 吉本大樹, 田中哲也, etc.



Top3 Interview GT300 決勝レース1



Race 1 Win カッコ良くはないけど、勝てて本当に良かった 谷口 信輝 No.4 初音ミクグッドスマイル BMW
序盤はぶつぎりで離れていたんですが、柔らかめのタイヤというのあって、途中からタイヤが苦しくなりました。それで、残りの周回数と33号車とのギャップを聞きながら、ゴールまでタイヤをもたせようと切り替えていったんですが、最終ラップの最終コーナーを立ち上がったところで藤井選手に前に出られてしまっで、「ザ・直線番長」的な感じでカッコよくはないけど、勝てて本当に良かったです。それにね、僕はスタンディングスタートこそレースの醍醐味だと思っているので、この富士スプリントカップ、大好きですよ。今後も続けてほしいですね。



Race 1 2nd ストレートが速くて、かないませんでした 藤井 誠暢 No.33 HANKOOK PORSCHE
単独2番手での走行が続いたんですけど、後半になってBMW Z4(4号車)のペースが落ちたのが分かったのでプッシュしたら、最終ラップで一気に追いついて。最終コーナーでは最初からクロスラインを狙ってアウトから仕掛けました。トップに立って「これは勝てる!」と思ったんですけど、ストレートスピードが速くて、かないませんでした。



Race 1 3rd “終わりよければすべてよし”です 松浦 孝亮 No.43 ARTA Garaiya
雨の予選では自分たちが持ち込んだタイヤと路面が合わず、13位でした。でも、レースでは周りが思った以上にタイヤがタれたみたいで、インフィールドやヘアピンでおもしろいように抜きました。だからもう笑いも止まらなくて…(笑)。今年最後のレースで本当にうれしい結果が残せました。楽しいオフがやってきます!“終わりよければすべてよし”です。

Result GT300 決勝レース1 Fuji Speedway (4.563km) / 2010.11.11Fri 天候:晴/コース:ドライ/気温16℃/路面温度17℃

Result table with columns: Po, No, Driver, E/W, Machine, Tire, Time/Gap. Lists race results from No. 1 to No. 16.

Support Races Results

Table for F4日本一決定戦 予選結果 (Top10) with columns: Po, No, Driver, E/W, Machine, Best Time.

Netz Cup Vitz Race 2011 Grand Final 決勝 (Top10)

Table for Netz Cup Vitz Race 2011 Grand Final 決勝 (Top10) with columns: Po, No, Driver, Machine, Time/Gap.

Time Table 2010.11.13 Sun

Time Table showing race schedule from 8:00 to 17:00, including activities like ビットワーク, F4 決勝, オープニングセレモニー, etc.

タイムスケジュールは進行上の都合により変更する場合があります。

ENEOS SUSTINA LEGEND CUP

伝説の名ドライバーたちがハイブリッドスポーツカーで快走! ポールポジションは高橋国光選手が獲得



予選でベストタイムをマークした黒澤琢弥選手に「ENEOS SUSTINA賞」が贈られました。



こんな時間があることが本当に嬉しい No.100 高橋国光

本当に楽しかった。同窓会のようなレースで、昔走った仲間とまた一緒に走ることができる。こんな時間があることが、本当に嬉しいですね。30分間楽しんで走って、それに年齢のハンデもあってポールを獲得して、まるで拾い物をした気分です。ハイブリッドカーのレースは、実は今回が初めてじゃなく、もてぎ



のJoy耐でもCR-Zで走っているんですけど、改めて「時代の流れ」というものを強く感じましたね。レーサーは『ハンドルを握ると人が変わる』とはよく言われるのですが、どうも攻めた走りになっちゃう。でも(黒澤)琢弥君に聞いたら、ハイブリッドは攻めるだけだとロスになって遅いそうです。頭使って速く走る。誰でもが気楽に参加できる。新しいモータースポーツが誕生する予感がありますね。

ホットなSUPER GTの第1レースの興奮も冷めやらぬレーシングコースで「ENEOS SUSTINA LEGEND CUP 2011」の、公式練習を兼ねた公式予選が行われた。少しずつつなげが近づくタイミングで、終盤にはライトの眩しさも増すほど。だがレジェンド・ドライバーたちは、そんなことなどお構いなし。現役時代を彷彿させる、熱い走りを見せてくれた。

コースオープンになると同時にNo.2 土屋圭市を先頭に、各車コースイン。そのNo.2 土屋が2分17秒815をマークし、これがターゲットタイムとなる。これにNo.8 鈴木亜久里とNo.32 中嶋悟、2人の元F1ドライバーが19秒台で続く。2人いる70代ドライバーのひとり、高橋国光も2分21秒475とハイペースで走り、この時点で7番手につけていた。

セッション序盤戦を終えたところでNo.11 星野薫が2分19秒188をマークしてジャンプアップ。やはり走行中盤にタイムアップしたNo.8 亜久里とNo.32 中嶋の間に割って入る。No.11 星野は、FRO(SUPER GT専属レスキューチーム)のドライバーを務めているだけに腕は鈍ってない。セッションも後半に入ったところでNo.81 見崎清志が2分19秒491をマークして5番手となる。現役を退いて久しいが、やはりトヨタワークスで鍛えられたドライブングスキルは今も健在、ということだろう。またNo.3 長谷見昌弘とNo.20

柳田春人も、終盤になってタイムアップし、それぞれ6番手と8番手になった。最後に49歳と若手(?)のNo.6 黒澤琢弥選手が2分16秒840と、この日のトップタイムを記録。ただし、レジェンドカップのスターティンググリッドは、年齢によるハンデも加味されるため、71歳の高橋選手が2年連続のポールポジションを獲得した。

なお、No.82 寺田陽次郎選手は都合により、予選を欠席したが、決勝は出走の予定だ。



Legend Cup Starting Grid		2011 11.13 Sun 13:15 start	
高橋 国光 (1'59.379)	100	PP	
長谷見 昌弘 (2'02.700)	3	2	津々見 友彦 (2'00.372)
星野 薫 (2'05.188)	11	3	見崎 清志 (2'03.616)
柳田 春人 (2'07.995)	20	4	鮎子田 寛 (2'05.950)
鈴木 恵一 (2'09.433)	17	5	大岩 湛矣 (2'09.356)
館 信秀 (2'11.142)	36	6	中嶋 悟 (2'10.788)
関谷 正徳 (2'16.418)	37	7	土屋 圭市 (2'12.815)
鈴木 亜久里 (2'17.435)	8	8	黒澤 琢弥 (2'16.840)
近藤 真彦 (2'19.991)	24	9	岡田 秀樹 (2'19.885)
		10	寺田 陽次郎 (-)
		11	[未出走]
		12	
		13	
		14	
		15	
		16	
		17	
		18	

※(カッコ)内は年齢ハンデ調整済みのタイム、[カッコ]内は予選ベストタイム
※タイヤはヨコハマのワンメイク/車両はHonda CR-Zのワンメイク

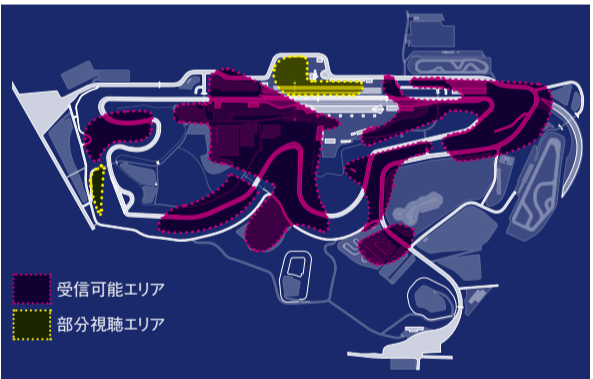
Information

FSW.TV 28ch

ワンセグ実験放送中!
会場内の一部を除く各エリアでFSW.TV (28ch)に合わせると、大型ビジョンで放送している映像や音声を、ワンセグ対応の携帯電話やカーナビ等でお楽しみいただけます。

チャンネル設定方法:
チャンネルの設定方法は視聴可能エリアにてワンセグを立ち上げ、チャンネルスキャンをしていただくか、十字キーを右もしくは左長押しすることでFSW.TVを見つけることができます。
*設定方法は機器により異なりますので事前にご確認ください。
*放送はワンセグ対応の携帯電話、カーナビ、携帯型TVなどで視聴できます。
※視聴可能エリアであっても周辺の電波状況により受信できない場合があります。
※部分視聴エリアは地形や建物により電波が遮蔽されていますが、一部受信可能な場所もあります。

本日14時まで、場内道路は一方通行(時計回り)となりますので、係員の指示に従ってください。



みんなでつぶやこう! **twitter**

FUJI SPEEDWAY FUJI SPRINT CUP "Twitter" !!

目の前のレース展開を実況したり、場内イベントやドライバー出没情報などみんなでつぶやき合って盛り上がりましょう!

富士スピードウェイ 公式ツイッター **FUJI SPRINT CUP** 公式ツイッター

FUJI SPRINT CUP 2011 会場限定 Wキャンペーン!

◆更新・入会特典: SUPER GT オフィシャルショップで使える5%割引券進呈

◆2012年度レギュラー会員更新受付

- レギュラー会員様の2012年度へ更新のお受付。
- 年会費: 4,100円のチャージをお承ります。
- 2012年度シリーズクレデンシャルパスをご購入予定のレギュラー会員様は、先行チャージを行ないます。
- 1,000円単位へのチャージも通常通りお承ります。

◆2012年度新規レギュラー会員募集

- 会員特典:
 - ゲストバスが購入可能
 - 前売観戦券が割引で購入可能
 - シリーズクレデンシャルパスが購入可能
 - その他、特典あり

サポーターズクラブ コミュニティサイト
www.super-gt.jp

【イベント広場 SUPPORTERS CLUB ブースにて受付中】

陸上自衛隊 車両展示

11/13(日) 終日
イベント広場自衛隊ブース

イベント広場の自衛隊ブースでは、災害派遣などに使用される陸上自衛隊の特殊車両を展示。同じブースでは陸上自衛隊写真展も開催中!

本日予定しておりました航空自衛隊による展示飛行につきましては、諸事情により中止となりましたので、ご了承ください。

富士学校音楽隊 決勝前セレモニーパレード

11/13(日) オープニングセレモニー中

11/13(日)の決勝前セレモニーでは、陸上自衛隊富士駐屯地に所属する「富士学校音楽隊」が富士スプリントカップ出場チームを率いてパレード。FUJI SPRINT CUP最終日のメインイベントを鼓舞する華やかなマーチが富士スピードウェイに響きます。

J SPORTS

FUJI SPRINT CUP は J SPORTS 4 で3日間ともハイビジョンライブ放送!

11月11日~13日の3日間、SUPER GTとフォーミュラ・ニッポンの各予選と決勝を全戦ライブ放送。リポート放送も。すべて高精細&ワイドのハイビジョンでお送りします。

11/14(月) 19:00~22:00
11/18(金) 20:00~23:00

DAY1
11/15(火) 20:00~25:00
11/19(土) 7:00~12:00

DAY2
11/13(日) 11:45~17:30
11/16(水) 20:00~26:00
11/20(日) 7:00~12:55
12/4(日) 20:00~22:00
12/8(日) 20:00~22:00

GT+ SUPER GT プラス

FUJI SPRINT CUP の魅力もお届け!

毎週日曜夜11時30分からテレビ東京系列にて絶賛放送中!
毎週日曜午前10時30分からBSジャパンでも放送。

2011シリーズの全戦をレポートしてきた「GT+プラス」。もちろんFUJI SPRINT CUPもピックアップ! MCに中尾明慶と浅田舞、リポーターに斎藤ゆきと小島秀公というおなじみのメンバーで、FUJI SPRINT CUPの迫力をお伝えします!

BSフジ

フォーミュラ・ニッポン 2011

BSフジで放送中の「フォーミュラ・ニッポン2011」では、FUJI SPRINT CUPでのフォーミュラ・ニッポンの魅力をお伝えします!

放送日時
11/18(金) 23:00~23:55
11/19(土) 11:00~11:55 (再放送)

BSフジ(BSデジタル)「フォーミュラ・ニッポン2011」ホームページ
http://www.bs-fuji.tv/top/pub/formula2011.html